

**令和3年度
練馬区食品衛生監視指導計画**

令和3年(2021年)3月

練馬区保健所

目 次

1	目的	1
2	監視指導計画の実施期間	1
3	監視指導の実施体制および他機関との連携等	1
4	主な監視指導事業	2
5	収去検査	5
6	食品等事業者自らが実施する衛生管理の推進	5
7	違反食品等の発見時や食中毒の発生時の対応	5
8	区民・事業者・行政間の情報および意見の交換（リスクコミュニケーション）	6
	別紙	8
	別紙	9
	別紙	10
	用語の解説	11

令和3年度練馬区食品衛生監視指導計画

練馬区では、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第24条の規定に基づき「令和3年度練馬区食品衛生監視指導計画（以下「監視指導計画」という。）」を策定しました。

1 目的

令和3年度に練馬区が実施する監視指導を定め、効率的かつ効果的な監視指導を実施するとともに、区民や食品等事業者に食品等の安全性に関する情報提供を行い、食品等に起因する食品衛生上の危害の発生を防止し、区民の食生活の安全を確保します。

2 監視指導計画の実施期間

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

3 監視指導の実施体制および他機関との連携等

実施体制

食品衛生に関する監視指導は、練馬区保健所生活衛生課の食品衛生監視員¹が、監視指導計画に基づき実施します。

食品衛生担当係は監視指導計画の策定および関係機関との連絡調整、区民への食品衛生に関する情報提供や普及啓発等を実施します。

食品衛生監視担当係（練馬地区担当・石神井地区担当）は食品等事業者の監視指導や収去検査²、食品衛生講習会の実施と、食中毒に関する調査や違反食品等に関する調査を行います。

大規模製造業、食品流通拠点および輸入食品の監視指導、複数の区にまたがった有害食品の排除や違反処理などに係る監視指導ならびに食中毒の広域発生時の対策は、東京都（以下「都」という。）と連携、協力して実施します。

他機関との連携

他自治体や関係行政機関（厚生労働省、農林水産省、消費者庁など）とは別紙のとおり連携します。また、連絡調整は法に定めがあるものを除き、都を通じて行います。広域的な食中毒事案については、国や都道府県等で構成される広域連携協議会を通じて情報共有を行い、効果的な原因調査や適切な情報発信を実施します。

庁内においては、保健所、健康部、産業経済部、教育振興部およびこども家庭部等の関係部署と連携して監視指導や普及啓発活動等を行い、食品の安全を確保します。

試験検査の実施体制

ア 試験検査の実施機関

収去した検体の試験検査は、検査内容に応じて生活衛生課試験検査係および民間登録検査機関で実施します。また、食中毒などに関する試験検査は、東京都健康安全研究センターで実施します。

イ 信頼性の確保

生活衛生課試験検査係における検査の信頼性を確保するため、精度管理基準に基づき内部点検の定期的な実施や、外部精度管理への参加ならびに検査機器の整備を図ります。また、技術の向上を図るため、研修や講習会の受講に努めます。

なお、民間登録検査機関に対しては、委託契約に基づき業務の適正な管理を求め、必要に応じて精度管理の実施記録を確認します。



生活衛生課試験検査係での検査の様子

食品衛生監視員の資質の向上

監視指導に従事する食品衛生監視員は、厚生労働省、都および特別区が実施する研修、講習会への参加により、知識および監視技術の向上を図ります。このほか、食品衛生に関する各種会議、意見交換会などの機会を捉え、情報交換や最新の知識の習得に努めます。

4 主な監視指導事業

年間実施予定

練馬区内で製造、加工、調理される食品や流通、販売される食品に関し、食中毒等の事故を未然に防止するため、以下に示す重点監視指導事業を中心に、監視指導事業の共通事項 について、別紙 の年間予定表に基づき監視指導を行います。

令和3年度監視指導予定件数	11,000 件
---------------	----------

監視指導事業の共通事項

- ・食品衛生法、食品表示法（平成25年法律第70号）、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律（平成2年法律第70号）、東京都食品製造業等取締条例（昭和28年東京都条例第111号）、東京都ふぐの取り扱い規制条例（昭和61年東京都条例第51号）の遵守の確認と指導
- ・製造、加工および調理の各段階でのHACCP³に沿った衛生管理および一般衛生管理の徹底、実施状況の確認および指導
- ・食品群ごとに食品供給行程（フードチェーン）を通じた衛生管理の徹底（別紙 ）
- ・食品等の仕入元・販売先に関する記録、機械類等の点検・補修結果やロット毎の製造記録などの作成・保存を指導

重点監視指導事業

ア 食中毒対策

(7) ノロウイルス⁴食中毒対策

ノロウイルス食中毒の原因は、調理者由来のものが多いことから、社会福祉施設等の給食施設や一般飲食店などの事業者を中心に、手洗いの重要性、食品への二次汚染の防止等の基本的な予防策を重点的に監視指導するとともに、従業員の健康管理および適正な記録管理について指導を強化します。また、区民に対しても、ノロウイルスに関する知識と予防方法について、普及啓発に努めます。

(1) 食肉の生食等による食中毒対策

食肉の生食や加熱不足を原因とする、カンピロバクター⁵や腸管出血性大腸菌による食中毒が多発しています。特に鶏肉等については、生食に関する法的規制がないため、生や加熱不十分な状態で提供する飲食店もあり、これが原因のカンピロバクター食中毒が発生しています。そのため、食品等事業者に対して、鶏肉等を生食することの危険性を周知し、十分に加熱して提供するように指導します。また、食肉販売業者、食肉処理業者、飲食店（焼肉店等）等の食肉を取り扱う施設についても、規格基準に合致しない生食用食肉が販売、提供されないよう監視を重点的に行います。また、食肉は中心部まで十分に加熱して提供することを指導し、食中毒の発生防止を図っていきます。あわせて、区民に対し食肉の生食の危険性を注意喚起し、普及啓発に努めます。

野生鳥獣肉については「野生鳥獣肉の衛生管理に関する指針（ガイドライン）」に基づき、ジビエなど野生鳥獣肉を提供する飲食店等の監視指導を実施します。

(ウ) アニサキス⁶による食中毒対策

近年、アニサキスによる食中毒が多発しています。このため、食品等事業者に対し、速やかに魚介類の内臓を取り除くこと、目視で確認してアニサキスを除去すること、中心部までの冷凍（-20℃で24時間以上）や加熱（60℃では1分、70℃以上で瞬時）により死滅することなどについて注意喚起を行います。また、アニサキスによる食中毒は家庭でも発生する可能性があるため、区民に対しても普及啓発を図っていきます。

(イ) 集団給食施設等の食中毒対策

高齢者や子供等が利用する社会福祉施設や児童福祉施設等の給食施設や、食中毒が発生した場合に大規模な患者発生につながりやすい集団給食施設を中心に、重点監視を行います。生野菜などの非加熱で提供する食品の取り扱いや、加熱調理の徹底、二次汚染の防止等について監視指導を行います。

(ウ) その他の食中毒対策

毎年、全国で毒キノコなどの有毒植物やふぐなどの有毒魚介類等の誤食による食中毒が発生しています。これらの食中毒対策について食品等事業者には情報提供するとともに、区民への普及啓発に努めます。

イ HACCPに沿った衛生管理への取組支援

食品衛生法の改正により、令和2年6月から、原則としてすべての食品等事業者に、HACCPに沿った衛生管理の実施が義務化されました。

食品等事業者に対しては、施設の監視や講習会等を通じて、食品等事業者が衛生管理計画を円滑に作成し実施できるよう、各食品業界団体が作成した業種別の衛生管理の手引書やHACCPに沿った衛生管理の導入を支援する「食品衛生管理ファイル」等を活用し、指導・助言を行います。

ウ 営業許可制度の見直し、営業届出制度の創設への対応

食品衛生法の改正により、令和3年6月から営業許可の業種区分が実態に応じて見直されます。また、HACCPに沿った衛生管理の制度化に伴い営業届出制度が創設され、許可業種以外の事業者についても把握する必要があります。そこで、業種区分が変更となったり、新たに届出対象となる食品等事業者に対し、新制度に基づく許可・届出や適正な衛生管理について周知します。

エ オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた監視指導

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、世界各地から都内へ多数の観戦者等の訪問が見込まれます。都と連携・協力し、区内ホテル等の調理場や弁当等製造施設等に対し、食品衛生法や関係法令の遵守、HACCPに沿った衛生管理の実施を踏まえた監視指導に努め、食の安全を確保します。

オ 新型コロナウイルス感染症発生を踏まえた食品衛生への対応

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、一般飲食店において新たにテイクアウト（持ち帰り）や宅配（出前）等を行う事例が増加しています。このため、これらを行う飲食店に対し、一般衛生管理の徹底や、調理済食品の適切な温度管理について、監視時や講習会等を通じて指導を行います。

カ 適正な食品表示への対策

食品表示法に基づき、関係機関と連携・協力しながら食の安全・安心の確保を図ります。食品等事業者の監視や収去検査などにより、区内の食品製造業者が製造する食品や、スーパー等で販売される食品が適正に表示されているかを確認します。不適正な表示を発見した際は改善を指導し、必要に応じて製造所を管轄する自治体へ情報提供を行い、円滑な対応に努めます。

夏期および歳末一斉監視指導

食中毒が多発する夏期および食品流通量が増加する歳末においては、厚生労働省および消費者庁の実施要領等を踏まえ、都と連携して一斉監視指導を実施します。

なお、実施結果は都が取りまとめたうえで、都ホームページで公表されます。



店頭での監視の様子

その他の監視指導事業

ア 広域流通食品対策

有害食品等の広域流通を防止するため、製造施設および問屋等の流通拠点、販売店での食品等の検査とその取り扱い状況について、都と連携して監視指導を行います。

イ 食品の放射性物質汚染対応

放射性物質汚染対応として、食品については国の基準値に基づき生産地での検査が実施され、安全な食品の流通が図られています。基準値を超えるおそれのある食品が流通した場合は、国、都および他自治体と連携し、追跡調査や必要に応じて検査を実施します。

ウ 輸入食品対策

輸入食品の安全を確保するため情報収集に努めるとともに、区内に流通する輸入食品の監視や検査、輸入業者への指導を行います。

エ 残留農薬等対策

農産物における残留農薬、家畜および養殖魚介類に使用される飼料添加物ならびに動物用医薬品について情報収集に努めるとともに、東京あおば農業協同組合との役割分担の下、残留農薬の検査を実施します。

オ 行事等における臨時業者等の監視指導

西の市やボロ市等の臨時業者および行事への臨時出店者に対する衛生的な食品の取り扱いの指導や、これら行事内での適正な営業許可において営業しているか監視を行います。

5 収去検査

年間実施予定

監視指導事業にあわせて、別紙 の年間予定表のとおり収去検査を実施します。

収去検査実施予定検体数

(単位：検体)

細菌検査	理化学検査	合計
730	120	850

6 食品等事業者自らが実施する衛生管理の推進

食品等事業者自らがHACCPに沿った衛生管理に取り組めるよう、食品衛生推進員⁷や練馬区食品衛生協会の自治指導員⁸と連携しながら、指導・助言を行います。また、保健所による監視指導時や営業許可申請時などの機会を利用して、ネズミや昆虫への対策についても、事業者に対して普及啓発を行います。

7 違反食品等の発見時や食中毒の発生時の対応

違反・不良食品等を発見した場合の対応

ア 基準違反食品を発見した場合

食品衛生法の製造基準などの違反や施設基準違反、食品表示法の表示基準違反を発見した場合は、改善や再発防止策を指導します。改善に期間を要する場合は、文書による指導を行います。

イ 違反食品等を確認した場合

食品衛生法等の違反食品、有害食品が確認された場合は、当該食品が販売および使用されないよう、他の関係機関と連携し、回収・廃棄など危害除去の措置を実施します。

食品の苦情についての対策

区民などから寄せられた苦情は、食品等事業者の調査や食品等の検査により、原因を調査します。原因が区内の事業者であれば、対象食品の回収、廃棄、取り扱いや施設改善を指導するなど、危害除去および再発防止の措置を実施します。調査対象が区外の場合は、管轄の自治体に通報し、調査、指導を依頼します。

食中毒等健康被害発生時対策

食中毒や違反食品等による健康被害の発生を把握した場合は、速やかに調査対象者や関係施設等の調査等を行います。社会福祉施設等での集団発症や腸管出血性大腸菌の感染者など、感染症も原因として疑われる場合は、保健予防課や庁内関係部署と連携します。また調査が広域に渡る場合には、都など関係機関と連携して原因を究明します。食中毒と判断した場合は、営業停止等の不利益処分を行い、被害の拡大防止を

図るとともに、衛生教育等で再発防止策を指導します。不利益処分などの措置を実施した際は、食品衛生上の危害の状況を明らかにするため、法違反者の営業者氏名や違反の内容等を区ホームページで公表します。

指定成分等を含む食品等を取り扱う営業者から当該食品等が人の健康に被害を生じ、または生じさせるおそれがある旨の情報の届出があった場合は、必要に応じて医師その他の関係者と連携し、国への報告を行います。

緊急監視

広域性があり、かつ緊急に有害食品などの排除を要する場合は、都と連携して関連施設の監視指導および危害防止の措置を実施します。また、区内において有害食品などを発見した時も、都と連携の上で、販売禁止処分や回収命令等の不利益処分、区民向けの広報を行うなど、迅速に危害の拡大防止を図ります。

8 区民・事業者・行政間の情報および意見の交換（リスクコミュニケーション）

区民への情報提供等

ア 媒体による情報提供

食中毒多発期の注意喚起や食品問題発生時などの情報提供を、「ねりま食品衛生だより」などのリーフレット、区報、区ホームページ、練馬健康管理アプリ（ねりまちてくてくサプリ）およびSNS（Twitter等）を用いて提供し、食品衛生知識の普及啓発に努めます。また、カンピロバクターや腸管出血性大腸菌による食中毒は、食肉の生食や不十分な加熱を原因とする事例が多いため、その危険性について積極的に情報を提供していきます。

イ 出前講習会等の実施

区民の食品衛生意識の向上のため、要望に応じて食品衛生出前講習会を実施し、食品衛生に係る情報を提供します。また、庁内他部署の実施するイベントに出展し、来場する消費者に対して積極的に食品衛生知識の普及啓発を行い、食品による健康被害発生の防止に努めます。

ウ 食の安全・安心講演会等の実施

食の安全・安心について区民の関心が高いテーマを選定し、講演会等を開催します。区民、食品等事業者、行政関係者が質疑応答等を通じ意見交換を行い、それぞれの立場に対する理解を深めることにより、食の安心確保を図ります。

エ 食育関連事業

食育基本法（平成17年法律第63号）を踏まえ庁内関係部署と連携し、児童を対象に、食品衛生知識の普及啓発を図ります。また、食中毒予防のための正しい手洗いを児童に周知するため、保育園児や小学1年生等を対象に「食の安全教室（手洗い教室）」を実施します。また、食育推進事業を通じて、食品衛生知識の普及啓発を図ります。



手洗い教室の様子

食品等事業者への情報提供（講習会）等（別紙のとおり）

ア 業種別講習会

飲食店営業など業種ごとの営業者、食品衛生責任者を対象に、それぞれの業種の特性を踏まえた食中毒予防のための衛生管理等についての講習会を実施し、HACCPに沿った衛生管理を適切に実施できるよう支援します。これ以外にも、食品等事業者からの要望に応じて講習会を実施します。

イ 食品衛生実務講習会

業種にかかわらず、区内食品等事業者の食品衛生責任者を対象として、最新の食品衛生事情や食品等事業者自らが実施する衛生管理の推進に関する情報を提供するため、練馬区食品衛生協会と共催で食品衛生実務講習会を実施します。

監視指導計画への区民意見の募集

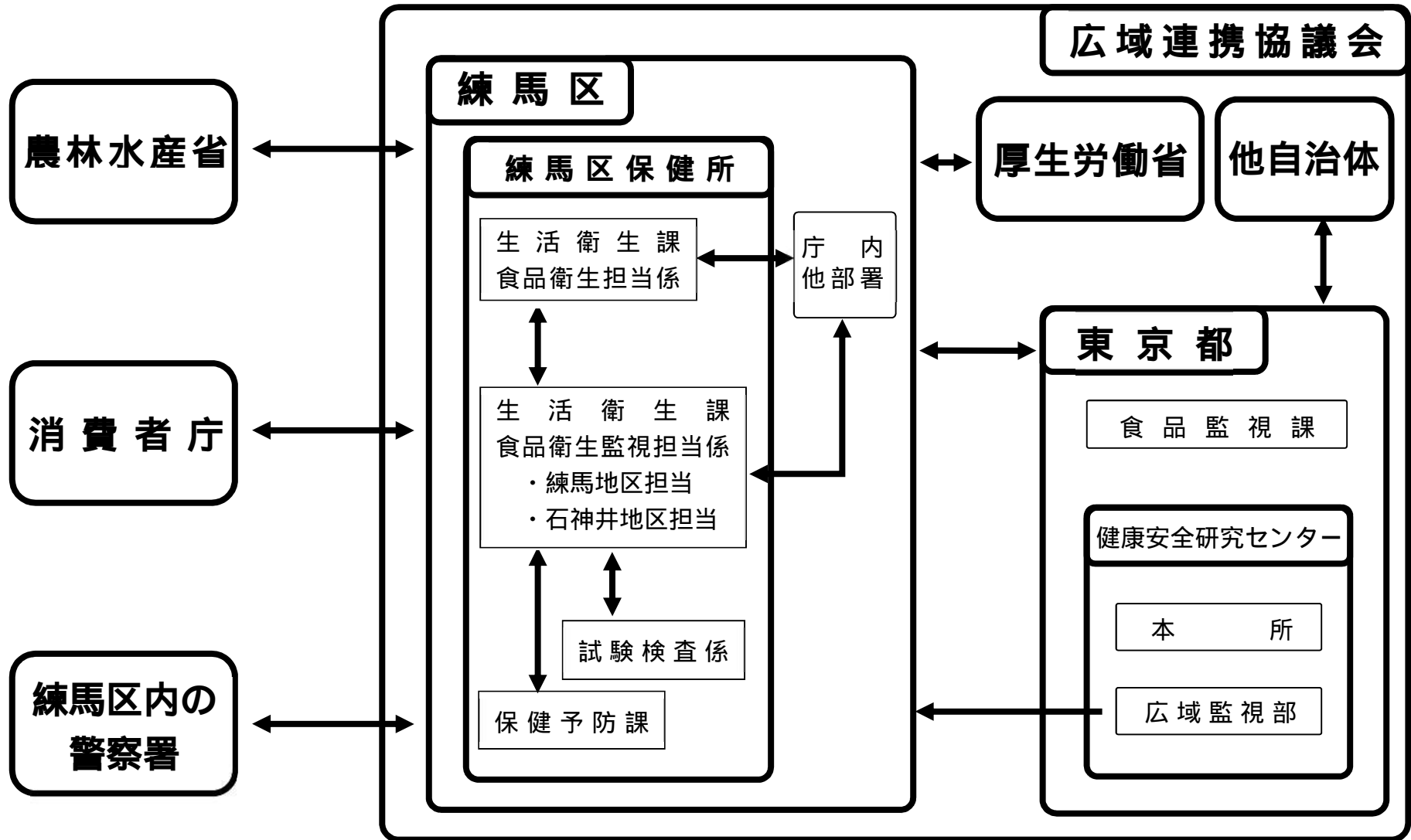
区民意見反映（パブリックコメント）制度に基づき、本監視指導計画の素案を公表し、区民や食品等事業者の皆様からご意見を募集しました。それらの内容等を踏まえ、監視指導計画を策定しました。

なお、本監視指導計画の実施結果は、令和4年6月末までに区ホームページ等で公表します。

年間実施予定

事業名	実施日程
業種別講習会（食品等事業者向け）	令和3年6月～令和4年3月
消費生活展ねりまへの参加	令和3年6月
食品衛生月間パネル展示	令和3年8月
食品衛生実務講習会（食品等事業者向け）	令和3年9月
くらしのフェア2021へのパネル展示	令和3年10月
食の安全・安心講演会等	令和3年10月
冬の食中毒予防パネル展示	令和3年12月
令和4年度監視指導計画素案の公表・意見募集	令和3年12月～令和4年1月
令和4年度監視指導計画の策定および公表	令和4年3月
ねりま食品衛生だより	3回発行
食品衛生出前講習会	随時実施
食の安全教室（手洗い教室）	随時実施
食品衛生情報の区ホームページ掲載	随時実施
令和3年度監視指導計画の実施結果の公表	令和4年6月末までに実施

監視指導の実施体制および各機関との連携体制



年間予定表

	4～5月	6～8月 (夏期一斉)	9～10月	11～12月 (歳末一斉)	1～3月
一斉監視等	学校給食施設 保育園給食施設 集団給食施設 (社会福祉施設等を含む)	夏期に事故原因となりやすい食品等の製造業、販売業および飲食店の一斉監視指導 学校給食施設	食肉関係営業 (食肉販売業、食肉処理業、食鳥処理業、焼肉屋等) 飲食店(そば屋) 製造業(和生菓子) 学校給食施設 集団給食施設	歳末食品の製造業および販売業に対する一斉監視指導 ふぐ取扱関係営業 製造業(洋生菓子) 輸入食品の監視 縁日・祭礼監視 (西の市、ポロ市)	各種製造業 (パン、豆腐、その他) 大規模製造業 各種販売業 無許可営業の摘発 輸入柑橘類等販売業 行楽地一斉 集団給食施設 (社会福祉施設等を含む)
		← 生食用食肉取扱施設 → (食肉処理業・食肉販売業・飲食店営業)			
収去検査 (細菌・理化学検査)	学校給食 保育園給食 集団給食	夏期に事故原因となりやすい食品を中心に収去検査 * 集団給食 * 調理パン * 弁当・仕出し弁当類 * テイクアウトすし(すし種を含む) * アイスクリーム等 学校給食	和生菓子 学校給食	歳末に流通量が増加する食品を中心に収去検査 * 洋生菓子 * そうざい類 * ゆでめん * 中華麺、皮類 * 冷凍食品 * つけ物 * 清涼飲料水 * 魚肉練り製品 * 食肉製品 * 加工食品 * 輸入食品	輸入柑橘類 輸入冷凍野菜 残留農薬検査 豆腐
		食肉類(生食用食肉含む)			
その他、必要に応じて収去検査・買い上げ検査を実施する。					
実施事業 (講習会等)	食品衛生推進員会議	業種別講習会 (区立保育園給食、区立学校給食、集団給食、仕出し・弁当屋、テイクアウトすし・すし屋、魚介類販売業) 自治指導員講習会 監視指導計画実施結果の公表(6月) 食品衛生月間(8月)	食品衛生実務講習会(9月) 業種別講習会 (食肉販売業・食肉処理業、そば・うどん屋、居酒屋・焼肉屋、和生菓子) 食の安全・安心講演会(10月)	業種別講習会 (集団給食、洋生菓子) 冬の食中毒予防ハル展示(12月)	監視指導計画の意見募集(1～2月) 食品衛生推進員会議 次年度監視指導計画の公表(3月)
	食品衛生だより発行(3回) 食中毒予防啓発パネル展示 区ホームページ、SNS等掲載 食の安全教室等消費者講習会 HACCPに沿った衛生管理への取組支援				

食品群ごとの食品供給行程(フードチェーン)を通じた衛生管理

フードチェーン 食品群	生産および食鳥処理	製造および加工	貯蔵、運搬、調理 および販売
食品一般		<ul style="list-style-type: none"> ・使用添加物(製剤を含む。)の確認の徹底 ・異物の混入防止対策の徹底 ・温度管理の徹底 ・アレルギー物質を含む食品に関する表示の徹底 ・記録の作成および保存の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・流通管理(保存温度、衛生的な取り扱い等)の徹底
食肉、食鳥肉および食肉製品	<ul style="list-style-type: none"> ・認定小規模食鳥処理施設における処理可能羽数の上限の遵守の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物汚染の防止の徹底 ・原材料受け入れ時の残留抗生物質および残留抗菌性物質の検査の実施等による原材料の安全性の確保の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・流通管理(保存温度、衛生的な取り扱い等)の徹底 ・加熱調理の徹底
乳および乳製品		<ul style="list-style-type: none"> ・微生物汚染の防止の徹底 ・原材料受け入れ時の残留抗生物質および残留抗菌性物質の検査の実施等による原材料の安全性の確保の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・流通管理(保存温度、衛生的な取り扱い等)の徹底
食鳥卵		<ul style="list-style-type: none"> ・新鮮な正常卵の受け入れの徹底 ・洗卵時および割卵時の汚染防止の徹底 ・汚卵、軟卵および破卵の選別等検卵の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・低温保管等温度管理の徹底 ・破卵等の検卵の徹底
水産食品(魚介類および水産加工品)		<ul style="list-style-type: none"> ・ふぐの衛生的な処理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・流通管理(保存温度、衛生的な取り扱い等)の徹底 ・加熱調理の徹底
野菜、果実、穀類、豆類、種実類、茶等およびこれらの加工品(有毒植物およびキノコ類を含む。)		<ul style="list-style-type: none"> ・生食用野菜、果実等の衛生管理の徹底 ・原材料受け入れ時の残留農薬検査の実施等による原材料の安全性の確保の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・穀類、豆類等の運搬時のかび毒対策の推進

記載のないものについては、関係行政機関により衛生管理の指導が行われる。

用語の解説

- 1 **食品衛生監視員**とは...食品衛生法で定められている、厚生労働大臣、都道府県知事、特別区長が任命する一定の資格を持った職員のこと、食品関係施設への立入権限、収去権限などが与えられる。
- 2 **収去検査**とは...食品衛生法第 28 条に基づいて実施する食品の検査のこと。検査に必要な食品等は食品等事業者から無償で提供させることができる。
- 3 **HACCP**とは...国際的に推奨されている食品の衛生管理の手法で、製造工程全体における危険性を分析し、重要な管理ポイントを特定して安全性を確保するシステムのこと。Hazard Analysis and Critical Control Point (危害分析に基づく重要管理点) の頭文字をとって HACCP (ハサップ) と呼ばれている。
- 4 **ノロウイルス**とは...食中毒や感染症の原因となるウイルスの一種。感染力が非常に強い。潜伏期間は 24 ~ 48 時間で、主な症状はおう吐、下痢、腹痛、発熱など。カキなどの二枚貝の生食や、感染者の便やおう吐物を通して感染する。予防は、二枚貝は中心部まで十分に加熱すること、トイレ後に十分な手洗いをすることが重要。
- 5 **カンピロバクター**とは...鶏、牛や豚などの腸内にいる細菌で、細菌性食中毒の最も多い原因となっている。潜伏期間は 2 日から 5 日と長く、主な症状は下痢、腹痛など。原因食品は、鶏肉 (特に生肉) やその加工品などで、少ない菌量でも発病する。予防は、鶏肉などの生食を避け、十分加熱すること。
- 6 **アニサキス**とは...寄生虫の一種。アニサキスの幼虫は、サバ、カツオ、サンマなどの魚介類に寄生する。体長 2 ~ 3 cm 位で、白色の少し太い糸のように見える。その幼虫が寄生している生鮮魚介類を生で食べることで、幼虫が胃壁や腸壁に刺入して激しい腹痛や吐き気、おう吐等の症状を引き起こす。
- 7 **食品衛生推進員**とは...食品衛生法第 61 条の規定に基づき、食品等事業者の自主的な衛生管理の推進および練馬区が行う食品の安全確保事業の推進に協力する者で、区長が委嘱した者。
- 8 **自治指導員**とは...日本食品衛生協会が行う食品衛生指導員養成の課程を修了した者、または日本食品衛生協会会長が承認した各支部の食品衛生指導員養成の課程を修了した者。

〒176 - 8501

練馬区豊玉北六丁目 12 番 1 号

練馬区保健所 生活衛生課 食品衛生担当係

電 話 03 5984 4675

F A X 03 5984 1211

E mail seikatueisei02@city.nerima.tokyo.jp